

3 Pre-Lesson 2 I like Japanese Comic Books.

好きなことを伝えてみよう

英語監修・出演 阿野幸一

きょうの目標 自分の好きなことを伝えることができる

- 好きなことを伝えるには——英語と日本語の語順の違い
- 1つの文に動詞は原則として1つ

文法・表現 一般動詞の使い方

好きなことを伝えるには——英語と日本語の語順の違い

自分が好きなことを伝えるときには、日本語では次のように言います。

私は **日本食が** **好き**です。

「私は」という主語のあとには、好きなことやものを述べ、最後に「好きです」という動詞がきます。では英語ではどうでしょうか？

I **like** **Japanese food**.

I という主語のあとには、like という動詞がきて、何が好きかという情報（ここでは **Japanese food**）が最後にきています。日本語を英語と同じ語順に並び替えると

私は **好き**です **日本食が**

のようになります。この文の中で相手に一番伝えたい情報は「日本食」です。英語では、相手に伝えたい情報、つまり聞き手にとって新しい情報は文の最後にくるため、このような語順になります。この語順は、like以外の動詞の場合にも当てはまります。

I **come** **from Australia**. 私は **来て**います（どこからかという） **オーストラリアから**

We **play** **basketball**. 私は **プレー**します（何をかという） **バスケットボールを**

日本語との語順の違いに注意して、主語のあとにはすぐに動詞を言うようにしましょう。このような like や come、play など、be 動詞以外の動詞を一般動詞といいます。

1つの文に動詞は原則として1つ

What kind of sushi do you like? と聞かれたときに、「私は」と答えようとして、とっさに I am という場合があるかもしれません。そのあとに「タコが好き」と言うために、結果的に以下のような文になってしまうことがあります。

*I am... like octopus.

この文には、am という動詞と、like という動詞が2つあることになってしまいます。動詞

このページ掲載の文章・画像の無断転載を固く禁じます。

には文を成立させる大切な役割がありますが、その役割を次の2つの文で確認しましょう。

I am an octopus. 私はタコです。(I = an octopus)

I like octopus. 私は(食用としての)タコが好きです。(I ≠ octopus)

このように **am**、**like** はそれぞれ異なる役割を持った動詞であり、2つの動詞を直接つなげて使うことはできません。「1つの文に動詞は原則として1つ」ということを覚えておきましょう。ただし、次の文のように使うことはできます。

I like Japanese comic books and read them often.

この文では I という主語に対して、**like** と **read** という2つの動詞がありますが、次のように2つの文に分けることができます。

I like Japanese comic books.

I read them (=Japanese comic books) often.

この2つの文を **and** でつなげたものであるため、動詞が2つあっても正しい文となります。

主語が自分と相手以外の人やもの場合

次の2つの文を比べてみましょう。

I go to school by bus. (私はバスで通学しています)

Yui goes to school by train. (結衣は電車で通学しています)

I のあとの動詞は **go** ですが、Yui のあとにくる動詞は **goes** になっています。このように、主語が自分 (I) と相手 (you) 以外の単数 (he、she、it、名前など) で、「現在のこと」を表す場合には、一般動詞を **s** で終わる形にします。**like** や **play** などは **s** をつけて **likes** や **plays** となりますが、**go** などの場合には、発音しやすくするために **goes** のように **es** をつけます。

一般動詞の否定文と疑問文

■否定文

動詞の前に **don't** (do not)、自分と相手以外の単数で現在のことを言う場合には **doesn't** (does not) を入れると否定文になります。**does** は **do** に **s** がついた形のため、**does** を使った文の場合には、動詞にはあらためて **s** をつける必要はありません。

I don't (do not) have a passport.

Jack doesn't (does not) play the guitar.

➔ **doesn't** ですでに **s** がついているため、**play** に **s** はつきません。

■疑問文

文のはじめに **Do** か **Does** を置き、最後に **?** をつけると疑問文になります。 **Does** を使った疑問文の場合には、動詞にはあらためて **s** をつける必要はありません。

Do you like ramen?

- Yes, I do.
- No, I don't (do not).

Does Ken like ramen?

- Yes, he does.
- No, he doesn't (does not).

疑問詞で始まる疑問文の場合には、**do** か **does** を疑問詞の後ろに入れます。

Why do you like ramen?

Where does Jack come from?

あの先生のこの話！



質問の意味を考えて

話し相手から質問されたときに、相手が何が目的で聞いているのかを考えて返答することが大切です。次の会話を見てみましょう。

* * *

Do you have a pen?

- Yes, I do. (沈黙の時間が流れる)

文法的には正しいやりとりですが、実際のコミュニケーションで、このようなやりとりが行われる場面を想像できるでしょうか？ 学校で忘れ物検査をしていて、先生が生徒にペンを持ってきているかどうかたずねるような場面に限られると思います。もし話し相手から日本語で「ペンを持っていますか？」と聞かれたら、どのように答えるか考えてみてください。「はい」と答えただけではコミュニケーションは成立しません。おそらく「はい、どうぞ」と言ってペンを貸してあげるのではないのでしょうか？ つまり、実際のコミュニケーションでは次のようなやりとりが行われます。

Do you have a pen?

- Yes. Here you are. (ペンを手渡す)

つまり、**Do you have a pen?** は、相手がペンを持っているかどうかを確認するために聞いているのではなく、ペンを持っていたら貸してほしいという依頼の文として使っているのです。機械的に質問に答えるのではなく、相手が何のために聞いているのかを考えて答えることが、コミュニケーションをとるうえで大切であり、使える英語力を身につけるためのポイントになります。